

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800102		
法人名	社会福祉法人 菊寿会		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	熊本県 山鹿市 菊鹿町 長 529番地		
自己評価作成日	令和元年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和元年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな山間の自然にあふれる中、木造平屋建ての環境に優しい「地中熱」を取り入れた住まいである。また、建物の周りには、栗園があり自然を満喫できる環境である。地域や地域住民との交流も定着しており、地域の中で住み慣れた生活を送られている。利用者の状態に合わせた個別ケアを行っている。御家族とも信頼関係を築き、御利用者と一緒に楽しめるような計画を実施している。食事は、なるべく地元の食材を利用し、季節感のある料理を心がけて作っており、ご利用者の楽しみとなっている。また、利用者が自然の環境の中で、ゆったりと楽しく暮らして頂けるような雰囲気心を掛けて支援を行っている。また、状態が悪くなられて特養に入所されたご利用者の面会を行ないながら最期まで、関わりを絶やささないよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である特別養護老人ホームの一角を占めるホームは、生活拠点と離れた立地ではあるが、自然の中でゆっくりとした生活を支援している。上寿の祝いをまじかに控えるという入居者を筆頭に90代が殆どという高齢化にあり、職員が入居者個々の現状を把握した個別ケアやリビングでの楽しみ事(歌や風船バレー等)等の集団ケアに取り組み、転倒予防・防止に向けたミニ会議等志向を高めて臨んでいる。開設時から“地域の中で共に輝いて暮らしたい”との思いを基にした理念を的確に認識し、地元のサロン参加等入居者の生活圏での関わりを視野に支援している。職員の持つケア力や、得意分野を生かした住環境は温かさを一層深め、主治医・家族とホームが一体となった看取りという最終章への取り組みに敬意を表したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、本体の理念と共に明日葉ホールに掲示している。また、開設当時より、スタッフのロッカーに貼り、この理念に基づきそれに沿った支援を行っている。新スタッフにも理念を理解してもらいそれに沿った支援を行っている。	地域と共に生き、地域とともに歩み…とする基本理念や基本方針、及び利用者と支援者視点でのホーム独自の理念を掲げ、ケア規範としている。全体研修での意識強化や、日々理念を目にすることで意識付けとしており、的確に捉えたホーム理念を、ケアに直結させたホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の収穫祭に手作りおやつを出品し、地域に活用して頂いている。3月の地域の敬老式典には、毎年案内を受け出席している。5月から10月の第2日曜日の作業には、スタッフ2名ずつ参加し地域の皆さんと一緒に汗を流している。集落より離れているにも関わらず12月の夜警にも来て頂いている。	地域活動に精力的に関わるホームは、地域住民との作業や敬老式典への参加の他、収穫祭や地域サロン(出身地区)等に出かける等地域の中で充実した生活が営まれている。また、交通安全のマスコット配布に入居者も参加される等ホーム及び入居者も地域の中の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のふれあいサロンに参加し、認知症の方と接した事がない住民の皆さんと共にゲームやクイズ、お茶会に交わる事で認知症の人の理解や支援に繋げている。また、他の地区のサロンに参加しグループホームの紹介を行い、住民の方々の相談窓口である事を説明している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や助言を頂いたら、スタッフ会議等で報告し、利用者が過ごし易い環境に繋げている。日頃の暮らしぶりの写真や「明日葉通信」は、会議当日に見て頂けるよう用意し、意見等を聞き今後の活動に繋げている。事業所の悩みなども聞いて頂いている。	運営推進会議は、行政・民生委員(輪番で参加)・社協、認知症サポーターや駐在所等をメンバーとして定期的に開催されている。ホームの現状報告や外部評価へ取り組み、山鹿菊池ブロックグループホーム研修会での資料を基にした説明等とともに、駐在所からの注意喚起(オレオレ詐欺等)、地域の状況発信及びリサーチの場等として有意義な会議が開催されている。	認知症サポーターの方からホームの取組が良くわかってきたとの声が上がっている。家族には家族会の中で説明されている。家族の参加を今後も促して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市開催の説明会に参加して、市の計画や意見を聞いている。ケアプランの提出により助言を頂いている。また、運営推進会議にも毎回出席して頂いている。市開催の徘徊模擬訓練にも毎年参加している。	運営推進会議への参加時に、ホームの状況を報告し、アドバイスを受けたり、介護保険制度変更等の情報を得ている。また徘徊模擬訓練への参加や、ケアプラン提出に出向きながらの情報交換等協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体的拘束適正化検討委員会にて「拘束はしない」を各部署と確認している。また、床センサー ベッドセンサーを使用する事で臥床時の拘束をしない工夫を行い、ベッドより下りられても怪我に繋がらないように夜間は床にマットを敷いて事故につながらないようにしている。	毎月身体拘束適正化委員会の中で検証し、多動の入居者への対応として、ベッド柵にカバーを付け、夜間は床にマットレスを敷いたり、センサーマット等を使用する等様々な工夫している。内出血の痕等には緊急ミーティングにより原因究明と対策を検討したり、低床ベッドにマットを横に敷く等転倒防止等リスク軽減に向けた対策を行い、拘束の無い生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年4月の全体研修で法令遵守の研修を行い、その中で虐待防止についても学ぶ機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者はおられない。施設内外の研修も受ける機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と契約書について説明を行い、納得されたことを確認して同意をお願いしている。「リスク説明書」と「急変時および重度化時の対応における事前意志確認書」「医療体制の説明同意書」の説明を行い、納得された事を確認して同意をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折りにご家族の意向を尋ね、ケアの在り方などの説明を行っている。2ヶ月に1回の「明日葉通信」と毎月の手紙により情報を発信している。また、アンケート調査や家族会、運営推進会議等の家族の意見や要望を活用するよう努めている。本年は、7月27日に単独で家族会を開く事ができた。	家族の訪問時に日常の様子説明とともに要望等を聞き取りしている。また、家族会やアンケート調査等家族の意見や要望等を出す機会は多く、家族会での意見がホーム行事に反映させている。	家族や訪問者からの意見等を収集し、質の向上に反映したいとの意向が意箱と設置に表れているが、利用は無いようである。意見や提案のみならず、職員の対応への気付き、特に良いケア等を収集できるよメモ用紙を工夫されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や日常の中で意見交換を行いながら、サービス向上に努めている。緊急な場合は、ミニ会議を行い申し送りノートや伝言メモにより全スタッフに報告し周知徹底をしている。半年に1回の個別面接時にも意見や提案等の聞き取りをしている。	幹部会の中で現場での問題点や職員との面接時の要望や提案等を精査・検討し、法人全体の運営に反映させる他、毎月のスタッフ会議や日々の申し送りノートを活用し情報を共有している。管理者とホーム長との話し合いにより職場環境を整え、夜間の転倒防止に向けたミニ会議等職員が意見や提案をする機会は多く、向上心を持って取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れており、年に2回(上期、下期)個別面接を行い、本人の意欲(目標)の達成感等を聞いたり助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体施設の全体研修は、毎月参加している。外部研修は、若手職員2名を中心に参加している。また、外部研修の内容は施設内研修で他のスタッフの研修内容とし、全員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム研修会や山鹿菊池ブロックグループホーム研修会及び会議に参加し、スタッフのスキルアップに繋げている。また、研修を開催するにあたり他の事業所と協力しあい研修を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に合わせ、会話が出来る方達と同じテーブルへセッティングしコミュニケーションが取れるよう介入する。環境変化に対する不安があり職員の目の届きやすい場所へ居室配置を行い相互の安心感を得る。本人の訴えを傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望される時、まず施設見学をすすめる。事前調査時に困っておられる事や不安な事を聞いて、できるだけ解消できるように支援の提案を行い信頼関係を築いていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の段階で本人及びご家族が一番必要としている事をスタッフが共有しながら支援し、必要なら以前利用されていたデイサービスやショートステイで利用されていた事業所への訪問をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力や身体機能に応じ、洗濯物たため、食器お盆拭き、野菜の下処理など出来る事をして頂く事により共同生活の一員として支援し合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、帰省の協力をして頂きながら、ご家族との絆を保っている。正月の帰省が困難な利用者には、ご家族の来荘を声掛けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	2ヶ月に1回、近隣のサロンに参加している。出身地や馴染みの地域への訪問に出かける事により関係の継続ができています。受診後、ご家族でドライブや外食を楽しまれたり、馴染みの地域への外出など関係の継続に繋げている。	入居者個々の生活歴をリサーチし、地元のサロンや敬老式典、収穫祭等への参加、盆・正月の帰省、法要参列等家族の協力を得ながら、馴染みの人・場所との関係性を継続させている。また、入居者同士、職員との関係も馴染みの関係が構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、気の合う仲間作りもできている反面、トラブルが起こることもある。利用者間の関係性に注意しながらホールでの席の位置を配慮したりしている。また、個別ケアを重視してご本人のやりたい事を見出したり希望される所に出かけたりしている。ご家族の協力を得て外出での気分転換を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所の為、退所されても利用者の面会を行っている。また、入院され退所された家族より相談があり、ご本人が亡くなられるまでその都度支援を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を伝える事が困難な方が増えており、日々の生活の中から、アセスメントを行っている。また家族から生活歴や本人の情報を聞きとり、本人が必要としている、思いや意向をプランに反映できるよう努力している。	入居者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、日々の会話での把握や表情等から推察し、毎月ケース検討会を開催し、全員の入居者の状況を話し合っている。意思疎通や発語困難等把握が難しい場合は、家族の情報等をもとに話し合いながら本人本位の生活となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族に聞いたり、入所前の担当ケアマネージャーに聞いて情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と同じ空間で時間を共に過ごし、観察や会話を多く持つことで状況を把握している。また、記録やスタッフとの情報交換の中から得る情報も多くある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでは、全員のモニタリングを行っている。また、介護計画書が現場で有効に活用される様、計画書は原案の段階でカンファレンスを行いチームで検討し、必要時は修正を行っている。	入居前アセスメントに基づき、本人・家族の意向や残された課題を話し合い、毎月のカンファレンスにより全員の達成状況などを精査し、半年後には新たにアセスメントしなおし、本人や家族の思いに応じたプランを作成している。ケアマネージャーによる援助目標の見極めや、退院に合わせた担当者会議等により、ADL向上や転倒予防に向けたプラン等個別のプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケア日誌に生活の記録を行い、日勤者、夜勤者間の申し送り簿により情報交換を行っている。また、繋げる必要があると思われる事は、申し送り簿ノートに記入したり写真をケア日誌に載せる事で事故防止に繋げている。またケア記録、スタッフとの情報交換の内容を支援経過にまとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の利用者への面会、そのご家族との連絡や要望などで施設が出来る範囲であれば柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域のサロンへ参加し、楽しい時間を過ごして頂いている。地域の方と声掛け合う事で、暮らしの豊かさにつながるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医を重視し、ご家族の協力を得ながら、受診を行っている。また、スタッフが医療機関へ健康状態や日々の暮らしについて情報を提供している。受診が困難な場合は、訪問診療を依頼して健康管理に努めている。	現在は全入居者が協力医による訪問診療を受けており、処方薬の受け取りを家族が行い、ホームに届けることで入居者の状態を共有するとともに、面会の機会となっている。専門医への受診の際は情報提供を行い、家族が同行している。歯科も訪問診療とし、歯科衛生士による口腔ケアの指導が毎月行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士は毎朝バイタルチェック、その他の状態観察を行い、異常があった際は常勤の看護師に報告相談し、必要に応じて受診するなど健康状態安定に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が付き添い本人やご家族が安心される様に情報を提供する。また、面会を行い利用者の不安を出来るだけ最小限になるように心がけている。医療機関より情報を得て、御家族とも相談を行い、お互いの関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りに対しては、老衰等ホームでの受け入れが可能な場合、本人の意思やご家族の考えを十分に検討し支援を行っていく方針がある。本人、ご家族の思いに応える終末期を支援するために「緊急時及び重度化時の対応における、事前意思確認書」「終末期の医療についての事前調査」を作成し入所時並びに担当者会議の際にご家族の考えを書面で残している。	入居時にホームの看取り支援について、“指針”をもとに説明を行い、急変時や重度化対応における家族の意向を「事前指定書」で確認し、医療体制について話している。その後、必要な時点で話し合い、再度確認をしている。異動により新たに看護師が配属され、毎朝のバイタルチェックや入浴前の再チェック、顔の表情や行動から異常を早期に見極め、受診につなぎホーム生活を支えている。	入居者の中には法人の特養施設へ申し込みを済まされている。職員は特養へ移行されても顔を見に訪問するなど継続して支援しており、今後も法人との連携が大いに期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、緊急連絡網を作成し全職員への周知徹底を図っている。緊急時の対応については、看護師 かかりつけ医の指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体が福祉避難所でもあることから、真空の備蓄食の準備があったり非常食としてインスタント食品を利用者、スタッフをも準備している。10月は昼間想定火災避難訓練を実施し今後は夜間想定火災避難訓練を予定している。毎月16日を災害の日として昼食時に利用者、スタッフ共に、非常食を食べながら、災害が起こった時の対策を考えながら、食事をとり確認している。また、部屋の入り口には、火災時などで避難した際、部屋に誰もいない事を確認した印として、手動のライトを設置している。	火災を想定した総合訓練を年2回実施している。法人が福祉避難所として市と協定を結んでおり、炊き出し訓練にはホームからも参加している。新たに法人本体に設置された発電機により、水の確保や痰吸引などの医療対応がさらに充実したものとなっている。ホーム独自でも水や食品、ヘルメットなどを確保しており、食品は月2回食事として提供することで、災害への意識強化につながっている。	災害については、危機管理意識を高くして望まれている。山間部という立地でもあり、以前地域で山火事が発生したことを踏まえ、土砂崩れなどを含めた自然災害への対策にもなお一層の取組が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の支援にあたっては、尊厳やプライバシーに配慮する事を職員間で共有している。職員の守秘義務については入職時や会議の中でも周知徹底されている。	職員は年間研修プログラムをもとにした研修に参加し、年度初めにはプライバシーや守秘義務、接遇について共有する機会を作り、特に守秘義務については入・退職時に研修を受けている。毎月の会議のなかで、入居者への尊厳や、スピーチロックについて日々の関わりに照らしながら話し合っている。本年度は特に入居者の入れ替わりや、職員の異動があったことで、ホーム内をさらに明るく安心できる空間にしたいとして職員が力を注いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや自己決定がしやすいように分かりやすく説明しているが、理解力の低下がある利用者に対しても思いが出やすいように言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握して、できるだけその方の希望に添える様に支援している。(体操、台所の手伝い、洗濯物たたみ、特養への散歩)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面整容を行い、一緒に身なりを整えている。外出や行事の時は、洋服もおしゃれして頂いている。敬老式典で着る洋服は、正装をして式典に出席されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、日々の材料に取り入れている。また、野菜の皮剥きやお茶碗お盆拭きをお願いしている。家族、近隣から頂いた野菜は、必ず調理し、食事中的話題となりありがたく頂いている。	菜園で育てた野菜や地元商店での買い出し、注文食材を活用して食事を提供し、入居者もできることで食に関わっている。誕生日等入居者の希望を聞き取りした行事食でお祝している。101歳という超高齢化の入居者の食事(刻み食やお粥等)を自力摂取される様子を職員のケア姿勢(残存能力を生かしたり、見守りの徹底)が表れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については、献立のバランスを考えながら旬の野菜を中心に取り入れている。カロリー計算は、年1回本体の管理栄養士にお願いし振り返っている。心不全の利用者もおられ、なるべく薄味で調理しカリウム摂取に制限のある利用者には、生野菜 果物の代替品を提供している。嚥下障害の方の形態にも対応(とろみクリア使用)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に歌をうたったり口腔体操を行い唾液の分泌を良くし、食事がスムーズに摂れるようにしている。食後の口腔ケアで異常の早期発見に努めている。異常時は、家族に相談し、受診往診をお願いしている。(月に1回本体歯科衛生士により口腔ケア指導)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを共有し、トイレでの自立に向けて、機能を引き出すよう声掛けを行っている。日中はリハビリを兼ねて距離のあるトイレを使用する方や布パンツにパットを使用したりと個々に応じて支援している。(夜間ポータブルトイレ使用者あり)	一人ひとりの排泄パターンを把握し、残存能力に合わせて出来ることを見守りながら、トイレでの一部介助や自立の方の継続を支えている。入院前後にはどうしてもレベル的に能力が低下することから、ホームではできる限り元の状態になってもらうよう支援している。また、退院後もオムツに頼ることなく、夜間帯も車いすでトイレへ誘導し、排泄用品の使い分けにより負担軽減としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の中に食物繊維の多い食材を取り入れる様にしている。(さつまいも、ごぼう、麦、オリゴ糖など)また、乳製品や果物の提供も心掛けている。排便チェック表をみながら、内服薬も含め、排便コントロールに配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定者はバイタルチェックを行う。希望があれば毎日でも入浴可能。入浴剤の使用や季節に応じた菖蒲湯やゆず湯も行う。リフト導入により、車椅子の方も湯船の中に入る事ができ、ゆっくり入浴を楽しまれている。	入浴は午後から1日3名を基本に支援しているが、汚染時や希望があればその都度応じている。バイタルチェックで入浴可否を見極め、拒否される方への工夫も楽しみの一つと捉え、ゆっくり入ってもらうよう努力している。リフトの導入により車いす利用者も湯船に入り、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地中熱の利用により、居室も自然な空調の為に、昼夜過ごし易い環境である。本人が、居室で休みたい時は、いつでも休む事ができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、全スタッフが把握しており、臨時薬がある場合は特に個々の検温版や申し送り簿に記載している。臨時薬の投与後は病状の変化等にも全スタッフが確認に努めている。誤薬防止の為に、与薬まで3回確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技、思いを日々の生活に活かせるように支援している。テーブル拭きや洗濯物たたみは日課となっている。朝食前の神様参りは、皆さんしっかり手を合わせておられる。9時過ぎから30分程の体操も日課となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも本人の要望にそえるようにしているが、日々の外出は短時間が主である。また、外出する際は、ご家族の協力を得て行っている。地域の収穫祭にも毎年参加している。	職員は入居者の外出の機会を工夫しながら、普段はホーム周辺の散歩や買い物への同行、ドライブなどに出掛けている。法人での炊き出し訓練の機会を利用して外で昼食会を開いたり、地域の収穫祭などへも参加している。家族による病院受診やその後の食事、買い物の協力、盆・正月、法事などへの帰省や他施設に入所する家族との面会など、家族の支えも大きなものとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どどの利用者家族より現金を預かっているが、一緒に買い物に出かけるのは、特定の利用者のみとなっている。利用者の買い物は、スタッフが家族の代わりに行うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に健康状態や生活の状況及びお知らせを毎月の手紙として送付している。電話は、希望に応じて取り次ぎをする体制はできており、その時は、ご本人に電話口に出て頂き、直接会話して頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールの空間に花を飾ったり、植物を置いて利用者の精神面の安定に努めている。また、馴染みの音楽や録画により心豊かに過ごして頂けるよう工夫している。	季節の花々が飾られた室内は、手入れが行き届き清潔な空間である。入居者の状態や使い勝手(ボーリング大会など)によってテーブルの位置を変更したり、台所からの音や匂いが食への期待を高めながら、会話の弾みリビング内である。合同制作する毎月のカレンダーは、色塗りを毎回楽しみに参加されている。職員は入居者との会話を楽しみながら記録したり、入居者の歌声が明るい雰囲気醸成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファーやいすを設置し、いつでも過ごし易い空間を心掛けている。また、気の合う利用者同士が思い思いにゆっくりと過ごせる空間を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や御家族との思い出の写真を飾ったり、好きなお花を飾ったりする事により居心地良く過ごせるように心がけている。衣替え時期には、家族へ持ち帰りや必要な物を依頼し、家族と一緒に居心地の良い居室環境に努めている。面会時は、居室でゆっくり過ごされるよう声掛けしている。	入居前にホーム内を見学してもらい、部屋を確認したうえで、入居者に必要な物品の持ち込みを依頼している。居室には地熱を活用した自然の空調設備が整っており、1年を通して温度差に極端な変化が無いよう工夫されている。掃き出し窓の先には、木製のデッキを設けている。職員は、日々の掃除を徹底している。また、入居者の中にはベッド上に布団をたたむことが日課となった方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名札や目印の人形、トイレ等に表札を掛けて、分かりやすい言葉で表示している。また、ホールや廊下には、危険になるような備品は置かないようにしてリスクの回避に努めている。		